

## 「全鍍連」 2024年 10月号 巻頭言

全鍍連 監事 出野 哲也 (株)大宮鍍金工業 代表取締役社長)

「当社にとって欠かせない人材」



先日、さいたま市のある社会福祉法人の障害者就労支援施設を見学させていただきました。この法人は、いくつもの施設を持ち、年々規模を拡大しています。特に経営者の考えが素晴らしく、各事業においてその道のプロに支援してもらい、本物の製品やサービスを提供することで、生産性を高め、障害者の働く場と生活の向上に貢献しています。本当に素晴らしい法人です。

日本の障害者の人数は現在 1160 万人、全国民の 9.2% (令和 5 年版障害者白書より) であり、人口の 1 割近くになります。人手不足が深刻化する中で、その活躍が重要になってきています。

当社も障害者を 10 名雇用しています。全員知的障害者で、製造現場でめっき製品のジグ装着などに従事してもらっています。障害者雇用を始めたのは先代の社長の時代で、現在で 36 年目になります。きっかけはバブル景気の頃の人手不足でした。最初の障害者を雇用した時、この人材は、当社で活躍できそうだと感じ、その後少しずつ増員して、現在 10 名になりました。私も 5 年前に 3 名、新たに雇用しました。みんな製造現場で活躍してくれて、当社では欠かせない人材となっています。

障害者雇用は、一般的には職場にサポート人員がいて、専用のマニュアルがあり、時に綿密な計画表のもとで作業をしてもらう、という体制で行われていると思いますが、当社では特にそういった体制はとっていません。多品種小ロットの製品が次から次へと投入される中、障害者自身が適宜対応し、普通に他の社員と同じ様に働いています。この普通の感じが良いと言ってくれる人もいます。困るのが障害者雇用について秘訣を話してくれと言われた時です。何しろ特に何もしていないのだから話すこともないのです。何かネタはないかと社員にいろいろ聞いてみた事がありました。「気を使っていることは?」「感じていることは?」等々。そこから分かったのは、社員の日頃の適切な配慮、やさしさ、そして敬意でした。社員が日頃、障害者に対し、よく考え、配慮していることに感心しました。これは社員の資質もありますが、障害者が職場で頑張っている姿が、社員にそういう思いにさせてくれているかもしれません。36年という長きにわたり障害者雇用をしていく中で、相手を思いやる姿勢が育まれてきたのではないのでしょうか。

今、人手不足が続く中で、様々な人材を活用していますが、その中でも障害者は当社に欠かせない人材です。これからも共に会社を成長させていきたいと考えています。